

個々の問題の出題の意図及びその正答率

社会 小学校 第6学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		思考・判断	観察・資料活用・表現	知識・理解	
日本史	1	1	1	大和朝廷ということばと、それが大和地方の有力な豪族たちがつくった政府であることがわかっている。				87.8
		2	2	さくやほりに囲まれた集落の様子や当時の社会の様子から、人々が他のむらとの争いに備えていたことについて考えることができる。				89.6
		3	3	古墳づくりの様子から、古墳を築くためには、すぐれた技術者を指図し、多くの人を働かせることができた人物がいたことを読み取ることができる。				87.1
	2	1	4	法隆寺は、聖徳太子が建てた飛鳥時代の代表的な建築物であることがわかっている。				79.9
		2	5	鑑真は聖武天皇が招いた僧であることがわかっている。				65.9
		3	6	各時代を代表する人物やその業績、社会の様子や変化などを手がかりとして、時代の大きな流れを考えることができる。				59.3
	3	1	7	幕府が開かれた、鎌倉のおおよその位置を日本地図の上で示すことができる。				48.4
		2	8	幕府（将軍）が武士（家来）に領地の所有を認め、手柄に応じて新たな領地を与えたことに対して、御家人は幕府のために働くという土地を仲立ちにした「ご恩」「奉公」という関係で幕府（将軍）と武士（家来）は結び付いていたことを、図をもとに考えることができる。				51.3
		3	9	元の要求を退け、元と戦うことを決意した時の鎌倉幕府の中心人物は、北条時宗であることがわかっている。				60.7
		4	10	書院造りの部屋の写真資料から、現在の日本風の家のつくりを受け継がれているものを見つけることができる。				85.1
	4	1	11	織田信長が鉄砲を大量に使用するという新しい戦法を用いて全国統一に大きく近づいたことがわかっている。				91.5
		2	12	豊臣秀吉が全国統一にどのような役割を果たしたのかを考え、キーワードを用いて自分の考えをまとめることができる。				49.4
	5	1	13	資料が何を示しているのかを正しく読み取り、江戸幕府が行ったことが誰を対象に、どんな目的で行われたのかを区別することができる。				74.1
		2	14	徳川家光の大名をしたがえる方法について考え、金沢藩の支出の約6割が江戸での費用に使われている事実から、参勤交代制度が、大名にとって大きな負担であったと判断することができる。				75.3
		3	15	鎖国により貿易船の出入りを平戸の出島に制限し、貿易相手国をオランダと中国に限った理由の一つは、キリスト教を禁止するためであったことがわかっている。				72.3
	6	1	16	年表を使っていつの時代のできごとなのかを調べたり、時間の経過でできごとを整理したりすることができる。				60.5
		2	17	治外法権を認めるという不平等条約の内容と、そのことが原因となって起きた事件とを関連付けて考えることができる。				63.8
		3	18	大日本帝国憲法は、天皇の権力の強い憲法であったことを手がかりとして、資料が示している内容を正しく読み取り、適切な資料を選択することができる。				44.3
		4	19	条約改正における陸奥宗光の果たした役割がわかっている。				60.0
		5	20	明治時代の人々の生活が江戸時代と比べて、人々のくらしが大きく変化したと考えられる事実を資料の中から見つけ、その変化の様子を自分のことばで表現することができる。				78.7